

伊方町誌 目次

目 次

口 絵

発刊のことば

伊方町長 福田直吉

発刊によせて

伊方町議会議長 福田弘

第一編 自然

第一章 位置・面積・人口

第一節 位 置	二
第二節 面 積	二
第三節 人 口	二
一 昔の状態	五
二 人口の変遷	六
三 人口動態	五
四 年齢別人口の構造	〇

第二章 地 形

第一節 地 形	一
一 三	一
二 三	一
三 三	一

第三章 地質と土壤

第一節 地 質	一七
第二節 土 壤	一〇
一 土壤の母材	一〇
二 土 壤 型	一〇

第四章 気 象

第一節 気 候	一一
第二節 海洋気象	一三
一 海水温	一三
二 潮 流	一四
三 潮 位	一四

第五章 生物・鉱物

第一節 生 物	一六
一 植 物	一六
二 動 物	一九
第二節 鉱 物	一六

第六章 自然災害

第一節 概 况	三三
---------	----

第一編 史	第二編 歴 史
第一章 先史時代	
第一節 近辺の遺跡	
一 近辺の縄文遺跡	七〇
二 弥生遺跡	七〇
第二章 古 代	
第一節 統一国家の形成と宇和郡の成立	
一 古墳時代	七一
二 統一国家の形成	七三
国 造	
三 宇和郡の成立	七四
第二節 地方政治の乱れと武家の台頭	
一 班田制の動搖	七五
二 矢野郷の成立	七五
三 地方政治の乱れと純友の乱	七六
藤原純友と橘遠保	
四 荘園の発生	七八
五 武門の棟梁	七九
六 池禅尼と矢野莊	八〇
第七章 地 名	
第一節 町内の地名考	五八
地名の由来	
第二節 ほのぎ（小字）	六一
ほのぎの起源・由来	
町内の小字	
第七節 資 料	
一 台風記録	四〇
二 豪雨記録	四八
三 干ばつ記録	五四
四 豪雪・異常低温記録	五六
五 地震・津波記録	五六
第六節 地震・津波	三八
第五節 豪雪・異常低温	三六
第四節 干 ば つ	三九
第三節 豪 雨	三四
第二節 台 風	三三

第三章 中世	八二
第一節 武家政治と宇和郡	八二
一 守護と地頭	八二
守護地頭の設置 大名領国形成	
二 西園寺氏と宇和郡	八四
三 摂津氏	八四
第二節 戦国の乱と宇和郡	八五
一 戦国時代の宇和郡	八五
第四章 近世	八九
この章を読むに当たって	
第一節 秀吉の四国平定と宇和郡の領主	八九
一 宇和郡の領主	九四
二 太閤検地	九四
第二節 幕藩体制の確立	九五
一 江戸幕府の成立と大名の統制	九七
二 宇和島藩の領主	九八
三 藩体制の確立	九九
富田信高 天領になったころの代官 伊達孚和島藩主	一〇〇
第三節 檢地と年貢	一〇一
第一節 宇和島藩の検地	一〇一
正保検地 寛文内折檢地(くじ持制) 宇和島藩の石盛	
元禄九年の御高直し 天保の検地	
二 宇和島藩の貢租	一〇五
正税 付加税 雜税 年貢未納者に対する藩の処置	
三 藩の歳入	一一三
第四節 貨幣と藩札	一四
一 貨幣と藩札	一四
二 貨幣 藩札(紙幣)	一六
三 錢の購買力「川柳」でみる	一七
第五節 代官と村浦の政治	一七
一 十組代官	一七
二 村浦の政治	一九
第六節 庄屋の変遷	一九
庄屋の変遷 村方三役 その他の諸役 村・浦方諸入用	
第七節 共同生活と五人組	一三五
一 村落共同体	一三五
二 五人組と連帯責任	一三八
第七節 生業と暮らし	一三九
一 産業の奨励	一三九
二 藩の産業振興策 「物産方」の拡充 産物	

二 農業と農民の暮らし	一四三			
初期の様子	牛馬の飼育	人口増加と藩の対策	耕地の拡大	
農業の発達	農民の暮らし	しし狩り		
三 漁業と浦方の暮らし				
イワシ網に重点を置いた前期の漁業	前期領内の本網・結出網			
の分布	中期・享保・寛政ころの網漁業	後期・享和以後の		
漁業	網主と網子	諸網の発展	浦方の負担	漁業の取
り縛まり	浦方の支配	豊漁と不漁	浦方の生活	
四 商人と職人				
村（浦）の商人と職人	伊方町の様子	商人・職人の免許制		
と税金	公定貢金と公定價格			
五 領外取り引きと荷船				
荷船	荷船で運ばれた商品	松山領との取り引き	海上交	一一五
通の取り縛まり	船の運賃	役船の定め		
第六節 飢饉と悪疫（伝染病）				
一 飢 饉	きん			
享保の大饥饉	天明の饥饉	天保の饥饉	その他	一一五
藩の災害対策				
二 悪疫（伝染病）				
痘瘡（天然痘・ほうそう）	コレラ			一一七
第九節 伊方騒動・二見騒動				
一 百姓一揆				一四一
第五章 近 代				
第一節 新しい世の中				
明治維新と宇和島藩				一七四
新しい世の中				
明治初期の騒動				
自由民権運動と建白書				
アメリカへの密航				
伝染病				
第二節 伊方騒動（文政一三年）				
二見騒動（文政一三年）				一四五
第三節 巡見使				
第一〇節 巡見使				一五三
第四節 参勤交代				
第一一節 参勤交代				一五七
第五節 伊能忠敬（勘由）の測量				
第一二節 伊能忠敬（勘由）の測量				一六三
第六節 長州征伐と宇和島藩				
第一三節 長州征伐と宇和島藩				一六五
第七節 雜				
第一四節 雜				一六七
第八節 芝居・盆踊り				
一 芝居・盆踊り				一六七
第九節 宗門改め				
二 宗門改め				一六八
第十節 犯罪と火災				
三 犯罪と火災				一六九
第十一節 表彰や救済等				
四 表彰や救済等				一七一
第十二節 その他				
五 その他				一七二

七 生 活	一八八
第二節 便利になつた暮らし	一九〇
一 便利になつた暮らし	一九〇
二 糜糓の発展	一九〇
三 米騒動ほか	一九二
第三節 不況と戦争	一九五
一 不況時代	一九五
二 マスコミの発達	一九九
三 生活	二〇〇
四 戦争の時代	二〇一
第四節 伊方分村と満蒙開拓	二〇一
一 伊方村の分村	二〇一
二 満蒙開拓と青少年義勇軍	二〇九
第三編 行政	
第一章 明治初期の行政	三一四
第一節 版籍奉還後の宇和島藩と村浦	三一四
一 字和島藩	三一四
二 宇和島県の誕生	三一五
三 神山県とその一年	三一六
第二章 村制時代の行政	三一八
第一節 市制・町村制と村政の動き	三一八
第二節 伊方村のあゆみ	三一九
一 村の機関	三一九
二 行政事務の概況	三一九
三 伊方村の自治関係者	三一九
第三章 町制の施行	三四三
第一節 町村合併の経緯	三四三
一 合併促進協議会の設置	三四三
四 愛媛県の成立	三一七
五 郡制の発足と沿綱	三一八
六 戸長と村役心得	三一八
第一節 明治初期の混亂	三一〇
一 戸籍調査	三一三
二 徵兵令	三一四
三 地租改正	三一五

二 合併促進協議会の経過と専門委員の活動	三一四五
三 新町名決定と役場の位置	三一四八
新町名 新町役場および支所の位置	
四 伊方村と町見村の合併議決	三一四五
五 合併申請と愛媛県告示第一四七号	三一五一
六 新「伊方町」の発足	三一五二
第二節 町政の概況	三一五四
一 合併後の町理事者・議員	三一五五
第三節 町行政組織の改廃	三一五七
第四節 行政委員会および委員	三一五九
一 選挙管理委員会	三一六〇
二 教育委員会	三一六三
三 農業委員会	三一六三
四 監査委員	三一六四
五 固定資産評価審査委員会	三一六六
六 公平委員会	三一六七
第五節 区の自治と区長	三一六八
区長会 地区自治活動促進制度	
第六節 町章・町花・町木	三一七一
町章 町の花・町の木	
第四章 議 会	三一七一
第一節 沿革	
一 創成期の議会	三一七一
二 町村制と議会	三一七一
三 戦後の自治と議会	三一七五
四 伊方村の歴代議会関係者	三一七八
五 町見村の歴代議会関係者	三一七九
第二節 町議会	
一 議会活動	三一八五
二 議員の選出	三一八七
三 歴代町議会関係者	三一八八
第五章 財 政	三一九一
第一節 近代税制の胎動	
一 年貢から地租へ	三一九一
二 地方税の誕生	三一九五
三 町村制の施行	三一九七
第一節 町村制移行前の町村財政	
一 戸長から村長への引き継ぎ	三一九八
二 旧村（浦）の債務と戸長の関係	三四〇一
三 学校の建築と資金調達	三四〇二

第三節 町村制時代の財政構造	四〇六
一 明治時代の町見村の財政構造	四〇六
初年度一一日間の予算 実質初年度の予算 村税收入	
財産収入 国県支出金 教育費 財政需要の推移	
二 伊方村と町見村の財政比較	四一七
三 大正期の財政	四一九
初めの一赤字決算 里道三机線改修 水道行政の芽生え	
団体補助の草分け 大浜大火と財政の発動 極限の財源調達	
財政需要の推移	
四 昭和期の財政	
世界恐慌の余波 漁港整備の村営化 地方財源保障制度の芽生え	四三三
戦事支出 戦時体制下の税制改正	
第四節 地方自治時代の財政	四四二
一 地方税制の変革	四四二
二 財源調整から財源保障へ	四四二
三 財政の再建	四四六
四 財政力の向上	四四七
第六章 社会福祉	四五一
第一節 社会福祉制度の移り変わり	四五一
第二節 福祉行政	四五三
一 民生委員	四五三
第三節 社会福祉協議会	四八一
一 概況	四八一
二 事業	四八二
三 团体	四八八
第四節 国民年金	四八九
基礎年金を導入した新年金制度	
第五節 医療保険	四九二
一 国民健康保険	四九二
二 老人医療	五〇三
三 零歳児医療	五〇五

四 重度心身障害者医療	五〇五
五 母子家庭医療	五〇五
第七章 保健衛生と生活環境	
第一節 衛生行政	
一 概 况	五〇七
二 保健衛生活動	五〇八
云染病予防対策 母子保健対策 農業危害防止対策 総合的な健康活動	
第二節 保健施設	
一 母子健康センター	五二六
二 保健センター	五二七
第三節 環境衛生	
一 清掃事業	五三〇
二 簡易下水道	五三一
三 豚犬登録と野犬対策	五三二
四 葬祭施設	五三三
第四節 公害行政	
第八章 水 道	
第一節 概 况	
一 沿革	五三四
一 大正のころ	五三四
二 昭和になって	五三四
二 上水道	五三六
三 簡易水道	五三八
四 水道の現状	五三九
第九章 土 木	
第一節 昔 の 道	
一 国道と県道	五四一
二 町 道	五四三
第二節 道路の開発	
一 伊方港の改修事業	五四四
二 中浦の一部	五四五
第三節 港 湾	
一 伊方港△地方港湾▽（区域=大浜・中之浜・仁田之浜・湊浦・小中浦）	五四五
二 伊方港の改修事業	五六一
第四節 漁 港	
一 概 况	五六二
二 伊方漁港△第一種▽（区域=中浦・川水田）	五六二
三 豊之浦漁港△第二種▽（区域=豊之浦）	五六三
四 九丁漁港△第一種▽（区域=九町・二見本浦）	五六五

五 田之浦漁港△第一種▽（区域＝田之浦・加周）	五六五
六 大成漁港△第一種▽（区域＝大成）	五六六
七 島津漁港△第一種▽（区域＝島津）	五六七
八 伊方越漁港△第一種▽（区域＝伊方越・龜浦）	五六七
九 九町越漁港△第一種▽（区域＝九町越）	五六八
第一〇章 治安・消防	五七〇
第一節 治 安	五七〇
一 昔の治安	五七〇
二 近代警察	五七一
三 明治になつて 警察官署のあゆみ	五八〇
第二節 消 防	五八六
一 消防の沿革	五八六
二 消防組織の変遷	五八六
私設消防組の創設 火防隊 消防団の設置	五八六
公設消防組の発足 消防施設と人的組織の拡充	五八六
三 伊方町消防団の現況	五九九
四 広域消防	六〇一
組合消防のあゆみ	六〇一
五 自衛消防	六〇三
六 火災記録	六〇八
第一一章 選 挙	六一六
第一節 選挙制度の変遷	六一六
第二節 選挙の管理機関	六一六
第三節 選挙の執行状況	六一三
一 國の選挙	六一三
二 県の選挙	六三〇
三 町の選挙	六三四
第一二章 広 報	六三七
第一節 住民と広報	六三七
広報紙の発行 声の広報	六三七
第一三章 労 働	六四三
第一節 戰前の労働事情	六四三
一 企業と雇用状況	六四三
二 労働運動史	六四五
三 物価と賃金	六五〇
第二節 戰後の労働事情	六五三
一 失業対策事業	六五三
二 事業所数および就労者の推移	六五五
三 出稼ぎ労働者対策	六五五

第四編 産業・経済

第一章 産業経済の動向	六六〇
第一節 概況	六六四
一 第一次産業	六六四
二 第二次産業	六六五
三 第三次産業	六六六
第二節 産業分布	六六六
第三節 土地利用	六七〇
一 土地利用の現状	六七〇
二 埋め立て	六七一
第二章 農業	六八〇
第一節 戰前の農業	六八〇
一 野菜・タバコ	六八一
二 ハゼ	六八三
三 畜糞・蚕	六八四
四 かんきつ	六九一
かんきつの導入 共販体制の沿革	
第一節 農地の推移	六九七
第二節 農地改革	七〇〇
一 農業委員会	七〇〇
二 農地改革	七〇一
第三節 農業の發展	七一四
一 戰後におけるかんきつ農業の概況	七一四
二 統制価格の撤廃	七一七
三 ◎マーク統一への過程とかんきつ農業の推移	七一八
四 施設園芸	七一四
第五節 有畜農業と畜産業	七一八
一 牛・馬の飼育	七一八
二 畜豚・その他	七三一
山羊とめん羊 鶏 豚	
第六節 南予農業水利事業と農業經營	七三四
一 事業に至るまでの経緯	七三四
二 事業計画の要旨	七三五
三 国営事業的主要工事	七三五
四 事業実施区分	七三六
五 南予用水国営付帶県営土地改良事業	七三七
六 用水計画	七三七
七 伊方町における県営かんがい排水事業の概要	七三九

第七節 伊方町土地改良区	七四三
第八節 農道	七四五
第九節 農業団体の変遷	
一 伊方町農業協同組合の沿革 産業組合の創立 農業会に改組 農業協同組合の発足 現況	七四八
二 農協関係諸団体 沿革 農協青年部 農協婦人部 果樹婦人部	七五二
その他生産者団体	
三 町見農業協同組合の沿革	
町見村信用組合の設立 農業組合への発展 農業会の設立	七五六
四 町見における農事研究団体の沿革 町見村農会 農事実行会 果樹同志会 四Hクラブと農協	七六一
青壯年部 農協婦人部 果樹婦人同志会	
第三章 林業	
第一節 林業の概況	七六五
第二節 林業の現状	七六五
第三節 松くい虫被害状況と対策	七六六
第四節 林業団体	七七〇
伊方村森林組合 町見村森林組合 伊方町森林組合	
第四章 水産業	
第一節 沿岸漁業	七七四
一 イワン船引き網	七七四
二 四ツ張り網	七七六
三 まき網	七七七
四 機船船引き網（イワン、アジ、サバ）	七七八
五 底引き網漁業 帆打漁網 機船底引き網（一そう）	七八一
六 定置網	七八四
七 伊予灘側の漁業	七八五
八 海士	七八七
第二節 近海漁業	七八八
突棒漁業 サバ釣り船	
第三節 豪州真珠採取漁業	七九〇
第四節 漁業の現状	七九二
第五節 水産業団体	
一 伊方町漁業協同組合	七九九
二 有寿来漁業協同組合	八〇一

三 伊方町商工会婦人部.....	八六八		
四 伊方町商工会青年部.....	八六九		
第七章 鉱業			
第一節 鉱業の沿革			
一 概 説.....	八七〇		
二 鉱山の開発.....	八七〇		
三 鉱山の盛衰.....	八七〇		
四 町内の主要鉱山.....	八七五		
成安鉱山(川永田).....	飼ノ浦鉱山(伊方越).....	九町鉱山(九町).....	
二見鉱山(二見).....	忠城鉱山(二見).....		
第二節 銅鉱製錬所の煙害史			
一 佐島製錬所の煙害.....	八七八		
二 女岬製錬所の煙害.....	八八〇		
第三節 砂利採取業			
一 女岬製錬所の煙害.....	八八二		
第八章 伝統技能			
第一節 酒造と伊方杜氏			
一 酒造りの歩み.....	八八六		
二 宇和島藩領内の酒屋(酒造所).....	八八六		
三 幕府の酒統制.....	八八七		
四 酒の神様 松尾神社.....	八九〇		
	八九一		
五 杜氏と酒造.....	八九一		
六 西宇和郡酒造組合.....	八九四		
七 伊方杜氏.....	八九六		
八 伊方杜氏の起源 伊方杜氏と出稼ぎ 伊方杜氏の出稼ぎ先 伊方杜氏の出身地 杜氏の年代別推移	九〇〇		
九 伊方杜氏の現況	九〇六		
第九章 金融			
第一節 初期の金融機関			
一 昔の金融.....	九〇六		
二 讀(無尽・頼母子).....	九〇六		
三 質屋.....	九〇七		
第二節 銀行の変遷			
一 第二十九国立銀行.....	九〇九		
二 西南銀行.....	九一〇		
三 銀行の統合.....	九一一		
第三節 町内の金融機関			
一 伊予銀行伊方支店.....	九一二		
二 伊方町農業協同組合.....	九一四		
三 町見農業協同組合.....	九一五		
四 伊方郵便局.....	九一六		

五 町見郵便局	九一六
六 町見漁業協同組合	九一七

第五編 教育

第一章 学校教育	九一〇
第一節 明治維新前の教育	九一〇
一 藩政時代の教育	九一〇
二 寺子屋	九一〇
第二節 教育の普及	九一三
一 明治時代の教育	九一三
学制の実施 小学校の設立 教育令による小学校 小学校 令の公布 小学校令一部改正(明治二三年) 教育勅語の発 布・御真影の下賜 小学校令(一部改正)明治三三年 国定 教科書制度の開始 改正小学校令 就学率の推移 出席率 の推移 学務委員	九一三
二 大正・昭和初期の教育	九三一
第三節 戰時下の教育	九三一
一 青年学校	九三二
二 国民学校	九三三
三 戰争と学校(国民学校の教科課程)	九三三
	九三四
第四節 戰後の教育	九三七
一 民主教育の新体制	九三八
二 六・三制教育の実施	九三八
三 教育課程の改善	九三九
四 同和教育	九四四
第五節 学校概況	九四七
一 伊方小学校	九五一
二 水ヶ浦小学校	九五二
三 有寿来小学校	九五四
四 豊之浦小学校	九五七
五 町見小学校	九六〇
六 二見小学校	九六三
七 伊方中学校	九六六
八 町見中学校	九六九
第六節 学校給食	九七二
一 沿革	九七二
二 学校給食の現状	九七三
第七節 私立伊方実践農業学校	九七六
一 育英会と愛郷会の設立	九七七
二 学校の設立	九七八
第八節 教育団体	九八〇

第一章 教育部会と学事会	九八〇
二 西宇和郡教員連盟	九八一
三 愛媛県教員組合	九八二
四 愛媛県教育研究協議会	九八三
五 伊方町教育会	九八四
第二章 社会教育	九八七
第一節 明治から戦前まで	九八七
一 初期における社会教育	九八七
二 青少年団の発達	九八八
第二節 戦時下の体制	九九〇
一 二つの流れ	九九〇
二 家庭教育	九九〇
三 読書活動	九九一
四 同和教育	九九一
五 社会教育団体の統合	九九二
第三節 社会教育の発展	九九三
一 終戦直後の社会情勢	九九三
二 社会教育施策の改革	九九三
三 社会教育課の設置	九九六
四 視聴覚教育の発達	九九八
視聴覚ライブラリーの設置	
第五章 同和教育の推進	一〇〇〇
伊方町における取り組みと歩み	
第四節 社会教育委員	一〇〇三
第五節 社会体育と文化団体等	一〇〇四
一 社会体育	一〇〇四
町民運動会　　体育指導委員　　体育指導員（スポーツ指導員）	
体育協会　　社会体育グループ　　社会体育施設	
二 文化団体等	一〇一〇
文化協会　　文化祭　　文化講演会等	
第六節 社会教育関係団体	一〇一三
一 P T A	一〇一三
沿革　　PTA成立の精神　　PTA研究大会	
伊方町PTA連合会の活動	
二 背年団	一〇一三
三 婦人会	一〇一七
四 壮年会	一〇一〇
第三章 公民館	一〇一一
第一節 公民館活動の変遷	一〇一一
一 公民館の創設	一〇一一
二 公民館活動の展開	一〇一二
第二節 公民館活動の現況	一〇一八

第三節 自治公民館活動	一〇四二
第四節 公民館運営審議会	一〇四五
第四章 教育委員会	一〇四六
第一節 教育委員会の制度	一〇四六
第二節 教育委員会のあゆみ	一〇四七
第六編 交通・通信	
第一章 陸上・海上交通	一〇五六
第一節 陸上交通	一〇五六
一 昔の陸路	一〇五六
二 陸上交通機関の発達	一〇六〇
鉄道 人力車・乗合馬車 自転車・自動車・バス 陸上輸送	一〇六四
第二節 海上交通	一〇六四
一 昔の海路	一〇六四
二 船数改め	一〇六四
三 庄屋船の遭難	一〇六七
四 沿岸航路の盛衰	一〇六八
五 海上輸送	一〇七一
第二章 通信・情報	一〇七四
第一節 ラジオ・テレビ	一〇七四
一 ラジオ	一〇七四
二 テレビ	一〇七五
第二節 マイクロウェーブ（無線中継所）	一〇七六
第三節 郵便事業	一〇七七
一 郵便制度の始まり	一〇七七
二 伊方町の郵便事情	一〇七八
三 歴代局長	一〇八〇
四 郵便物の取り扱い状況	一〇八二
第四節 電報・電話	一〇八三
一 電報	一〇八三
二 電話	一〇八四
第五節 情報化	一〇八五
一 行政事務の電算化	一〇八五
二 町内事業所の電算化	一〇八六
三 データ通信の普及	一〇八八
四 ニュームディアコミュニティ構想	一〇八九
第五節 ソフトソーシング計画	一〇九三

第七編 宗教・民俗・文化財・観光

第一章 宗 教

第一節 神 社	一〇九八
一 伊方の八幡神社（世行八幡宮）	一〇九八
二 各地区的神社	一〇九九
三 九町の八幡神社（宇佐八幡宮）	一一〇三
四 一宮客神社（加周）	一一〇五
五 各地区的神社	一一〇六
第二節 寺 院	一一〇八
一 無量寿山来迎院法通寺（真言宗御室派）	一一〇八
二 東光山妙楽寺（真言宗醍醐派、大本山三宝院末寺）	一一一二
三 日光山本立寺（日蓮宗）	一一一三
四 海南山天徳寺（臨済宗妙心寺派）	一一一四
五 高野山三寶寺（高野山真言宗）	一一一七
六 南海山普文寺（臨済宗）	一一一八
第三節 諸 宗 教	一一一八
一 净土真宗	一一一八
二 生長の家	一一一九
三 天理教伊方分教会	一一一九
四 天理教町見分教会	一一二〇

第五章 金光教伊方教会	一一二一
第六章 天照皇大神宮教	一一二二
第七章 創価学会	一一二三
第八章 黒住教九町教会所	一一二三

第二章 町の民俗・文化財・観光

第一節 年中行事	一一二四
第一節 衣・食・住	一一二四
一 衣 生 活	一一四四
衣服の歴史 仕事着 漁村の仕事着 現在の仕事着	
二 食 生 活	一一四四
食事の意義 食事の回数 主食 副食 鉢盛り あず	
三 住 生 活	一一五二
民家の大きさ 屋根葺き ひのら（前庭） 土間の多様性 作業能率への配慮	

冠婚葬祭の衣類

第一節 語 法	一一五四
第二節 用 語	一一五九
第三節 方 言	一一六〇
第四節 方 言	一一六三
第五節 方 言	一一六八

四 魚 類	一一六九
五 雜 動 物	一一七〇
第五節 民謡・わらべ歌	
一 民 謡	一一七一
二 わらべ歌	一一八二
(1) 労作歌 (2) 祭り歌・盆歌・亥の子歌 (3) 新作歌謡	
一 男の子の遊び	一一八六
二 女の子の遊び	一一八七
第六節 遊戯(童戯)	
一 平家の落人と伊方越	一一八八
二 中之浜のお猿權現	一一八九
三 中浦のおまんだぬき	一一九〇
四 一宮の蛇	一一九一
五 鶴を忌む氐子	一一九二
六 お茶の水	一一九三
七 おおだき	一一九四
八 からと様	一一九五
九 二見の四家株	一一九六
一〇 古屋敷の薬師如来	一一九七
一一 豊之浦の祝言	一一九八
一二 子安観音菩薩と底なし袋	一一九九
第七節 民話・伝説	
一 かばちやと大だこ	一一九七
二 四加周池と大がに	一一九八
三 「ドウノクボ」の白蛇	一一九九
第八節 文化財	
一 ナギの木	一一〇〇
二 五輪塔	一一〇一
三 市右衛門供養塔(墓)	一一〇一
四 きそん	一一〇三
五 得能主膳ゆかりの地	一一〇四
六 大名鶴籠	一一〇六
七 一里塚(史跡)	一一〇六
八 クロキヅタ(いわづた科)	一一〇八
九 丸岡城「城の台」	一一〇八
一〇 長崎城跡(史跡)	一一〇九
第九節 観光	
一 観光の概況	一一一〇
二 佐田岬半島・宇和海県立自然公園	一一一三
三 堂々山公園	一一一四
四 亀ヶ池	一一一四
五 九町越公園	一一一四
六 ブルーラインと原子力発電所	一一一五
七 海水浴場	一一一五

八 記念公園.....一一一六
九 伊方の祭り.....一一一八

第八編 兵 事

第一章 徴兵制と郷土	一一一
第一節 徴兵令と郷土の管轄区	一一一
第二節 徴兵検査	一一一
第三節 兵 役	一一三
第二章 戦争と郷土	一一八
第一節 事変・戦史	一一八
一 西南戦争	一一八
二 日清戦争	一一八
三 日露戦争	一一九
四 第一次世界大戦とシベリア出兵	一一九
五 満州事変・上海事変	一二一
六 日華事変・上海事変	一二三
七 大太平洋戦争(第二次世界大戦)	一二四〇

第二章 戦争と銃後の暮らし	一一四九
麦の供出命令 耐乏の生活 一億一心	一一五
第三節 戦没者	一一五五
第四節 抑留と引き揚げ者	一一八〇

第九編 官公庁・諸団体

第一章 官公庁・諸団体	一一八八
第一節 官公庁とおもな行政機関	一一八八
一 官公庁	一一八八
二 おもな行政機関	一一八九
三 学校・保育所・その他	一一九五
第二節 諸団体	一三〇一
一 経済・金融団体	一三〇一
二 諸団体	一三〇三

第一〇編 人 物

一三〇九

一三四一

目 次

年 表

あとがき

編集委員長 阿 部 嘉 明